防災連絡会議だより

３０号　（令和６年１０月１８日）

発行　北斗市防災連絡会議

防災イベントを令和７年３月22日（土）に延期

10月27日（日）開催予定の防災イベントですが、予期しない衆議院の早期解散により投票日と重なり、会場が使用できなくなり、非常に残念ですが、来年の３月22日（土）に延期することにいたしました。会場は総合文化センターの大会議室に変更しました。

防災イベントについては、ほぼいつでもできる状態にありますが、３月までは、緊張感を維持しながら準備をしていきたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

防災イベントの企画のご紹介です

防災イベントの概要について通信 29 号で紹介していますが、講演の内容と原稿をいただきました３人のパネリストのスピーチの一部をご紹介いたします。

あんどうりすさん

■副代表の白石勝士さん作成のチラシにはあんどうりす氏について「阪神大地震被災体験とアウトドアの知識を生かし、全国で講演活動を展開。楽しくてすぐに実践したくなる、毎日の生活を充実させるヒントがたくさんあると親たちの口コミで全国に広まり毎年公演回数は 100 回以上とあります。

＜講演の内容はこのような内容かなと思っています＞

１．津波から逃げるための３つのスイッチ
２．M7 や風と雨の強度をイメージさせる
３．家の中を安全にする方法　・・・飛散防止フィルム、家具の固定、トイレ対策
　　日常生活の中に （phase free)、断熱、耐震性
４．防災グッズ　ホイッスル　５．車での避難　６．低体温症を防ぐ服装は　etc

函館でのマルシェでの講演を聞いて分かったことは、各自治体発行の防災ハンドブックの備えの部分も丁寧に、わかりやすく説明してくれているということです。漫画なども活用しています。女性の講演者は少なく、女性の視点からの防災が今回のイベントの目玉です。あんどうりすさんも北斗市の市民の方々と交流できることを楽しみにしているそうです。北斗市で初登場！　ご期待ください！

■パネルディスカッションとは？

パネルヂスカッションは討論形式の一つで、テーマについて意見を述べ合うものです。最初の案では、要配慮者やその支援者の提言としていましたが、提言をもとに討議しようということになりました。

パネルディスカッションの目的は、要支援者の立場に立って防災を考えようというものです。パネリストの方からスピーチ原稿をいただいています。その一部を紹介しますので、パネルディスカッションのイメージをつかんでほしいと思います。

★“Get away from the sea””Watch for falling debris”落下物に注意！

ALT さんのスピーチ

スピーチの終わりに、「日本での生活は、外国人にとって常に簡単ではありません。私たちは、日本がその文化やアイデンティティーを捨ててまで私たちに合わせることを期待している訳ではありませんが、私たちに対するほんの少しの配慮のある行動が、日本をさらに素晴らしい国にすることに繋がると信じています。ありがとうございます。」とあります。

北斗市には外国人の方が約４００人おられます。防災面だけでなく、“1 人も取り残さない”という SDGｓの理念を再確認し、外国の方にとっても素敵な北斗市にしたいものですね。また、アメリカ合衆国のニューヨーク州の出身の彼は、ニューヨーク州では 100 年以上地震がないと話しています。うらやましいですね。

＜英語一口メモ＞　debris とは残骸という意味で、核燃料のデブリも同じ意味です。

★ 要約筆記サークル　あさがお「手書き」

今年で 30 年目を迎えるボランティア団体で、会員数は 31 名です。
要約筆記とは、病気や加齢などで耳が聞こえなくなったり、聞きずらくなった方（中途失聴・難聴者）に、その場で話された言葉を日本語で書いて伝える通訳です。（日本語同時通訳）要約筆記の勉強は函館市総合福祉センター（あいよる２１）を利用して、月に３回行っています。「あさがお」も社会貢献賞を受賞しています。
※「要約筆記」には、「手書き」と「ノートパソコン」を使用する２つの方法があり、ノートやホワイトボードに筆記したり、ノートパソコンでタイピングして実施します。個人の手元で文字を見る方式の他、多人数が情報取得できるよう、スクリーン等に表示する方式があります。　＜函館中途失聴者・難聴者協会の HP から引用＞

★萩野町内会の自主防災組織の紹介

齊藤介男さん（萩野町内会会長）

萩野町内会自主防災組織は、平成 27 年に元会長が市役所からの要請に応える形で前会長と共に平成 28 年 ３月…合意形成に手間取るも組織規約・組織図・個別支援計画・連絡網等の作成し立ち上げる事が出来ました。組織作りが成功した大きな要因としては、この地域で生まれ育まれた同年代のメンバーで町内会の役員をしていた事から、生まれ育った地域の役に立ちたいとの思いが共通していて、要支援対象の高齢者とは子供の頃から大いなる親しみが有った事に寄ると考えます。

齊藤さんは、ふまねっとやボッチャなどの活動を通じて、高齢者の心身の健康を維持するために社会福祉協議会と連携しながらボランティア活動を続けている方です。

北斗市には、ご存知のように、様々なボランティア団体があり活動を続けています。そ

の中から、運動も大事ですが、食生活の改善も大事です。そこで、食生活改善推進員について紹介します。健康的な食生活や食育について学び、地域で楽しく活動する北斗市食生活改善推進員は、食にかかわるボランティアのみなさんです。町内会での食改の開催やサロン活動（毎月第３木曜日）「ふれあいサロンいこい」も行っています。推進員を募集していますので、ご応募をお待ちしています。健康を維持することも防災ですね。

ふれあい福祉まつりについてのお知らせ

〇日時 11 月 2 日(土)　　午前 9:30～午前 12:00
〇北斗市総合文化センター
〇防災連絡会議のブース　　第一会議室（1 階）　午前９時集合
　■簡易ベットなど防災用品の展示　■防災クイズ

令和 6 年のふれあい福祉まつりは、新会員の石松さんや南さんを交えて、何度も会議を重ね、連絡会議独自の素晴らしい企画となり、高い評価を受けています。今年は防災イベントもあり、ふれあいまつりを準備する余裕がない所から、一時は参加を取りやめる方に傾きかけましたが、会員からの「やろう」との意見や事務局から温かいご意見をたまわり、参加することになった次第です。

代表の私は、防災イベントが延期となり、少し心に余裕ができましたので昨年作成した小学生用の防災クイズ「ピクトグラムと地図記号」をこの機会に試してみようと思っています。当日の参加者はいまのところ、栃木さん、石川さん（事務局）と代表の 3 人です。また、前日の準備は午後４時、第一会議室に集合です。こちらもよろしくお願いいたします。

2023 年（令和６）のふれあいまつり

新会員の堀内俊一さんをご紹介いたします。

堀内さんは、菱田繁樹さんが会長を務める中央親和会に属しています。堀内さんが連絡会議の会員となったことは、連絡会議にとっても町内会にとっても大変ありがたいことです。共に、北斗市の安心と安全な町づくりのために、無理せずに頑張って行きましょう。心から歓迎申し上げます。自己紹介は、セルフでお願いいたしました。ご覧ください。

★★★

今年（令和 6）6 月、防災士になるために、北斗市の補助金を活用して、防災士資格試験に合格し、防災士になることができました堀内俊一です。これを機会に、北斗市防災連絡会議の一員として尽力していく所存でございます。

私は、道南の出身でないため、あまり北斗市の地域については知らないことが多く、皆様にご迷惑をおかけすることが、多々あろうかと思います。地域を知り、地域になれながら一生懸命に努力していきますので、ご教示ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

講演会（歴史講座）のお知らせです。

タイトル　　木村文助が見た駒ケ岳噴火　「山災實記」
日時　2024 年　11 月 23 日（土）14:00～15:30
会場　函館市中央図書館　視聴覚ホール
講師　上野廣幸（防災連絡会議代表）　※参加料無料、直接会場にお越しください

以前、通信でも紹介している木村文助さんが著した「村の綴り方」の中に、昭和４年の駒ケ岳の噴火の記録があったのです。その記録は、次のような書き出しで始まっていいます。

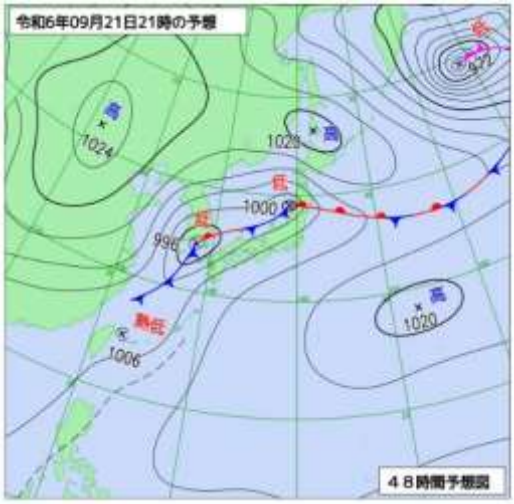
昭和四年六月十七日、午前五時半頃起きると「山が抜けた」と話しているので、見ると澄み切った蒼空に巨人のごとく屹立している 駒ケ岳の嶺の左に当たって、一団の雲のようなものがぽっかり浮いてむくむくと動きながら、更に左方に靡いてゆく。其下方に当たる鹿部村は定めし真闇であろうと想像さる程。・・・

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

北海道の積丹半島も能登半島と同じ課題がある・・・・

１人死亡、けが人複数　土砂崩れや停電も　石川・能登北部で大雨
能登地震の被災地に豪雨、仮設住宅が浸水、16 河川氾濫、集落孤立
石川、震災から１年たたないうちに再び災害　SNS には無事祈る声
石川県輪島のアメダスで９時 22 分に１時間 121mm の雨量を観測

上の囲みは、９ 月に起きた「能登豪雨」「奥能登豪雨」などと呼ばれる豪雨災害を報じる新聞の大見出しをピックアップしたものです。１ 月 １ 日の能登半島地震の被災地で、今度は記録的な大雨が降り、「記録的短時間大雨情報」が相次いで発表されました。



信じられないのが、仮設住宅が浸水。これは人災としか言いようがないと思います。避難所の問題は能登半島だけの問題ではありません。自助や共助が求められ、地域でも努力をしていますが、それには限界があります。基本は国民の命を守る公助なんですね。

＜天気図　気象庁＞　北海道から見ると、低気圧・前線を北の高気圧でブロックしているのがわかります。台風は北上できませんね。

事務局　　北斗市総務部総務課交通防災係
電話 73－3111（内線 212～２１４）　　メール bosai@city.hokuto.hokkaido.jp